

2004（平成16）年度 前期 京都大学 入試問題 文理共通 第1問 解答例

問一

趣味と教養とは、直接的な生産活動ではなく、有閑的で無駄な消費と否定されかねない点で類似する。他方、趣味は単に生活と事物の適度な味わい方を知るのに対し、教養は知識が遊離せず総合的な調和ある形で人間と生活の中に結びつく根底的な積極性を持つ点で大きく異なるという考え。

*類似点と相違点とについて、それぞれ明示すること。

問二

教養と知識を不当所得によるものとして否定し、経済的な物質面での生活こそ唯一の社会的で人生的な関心であるとする、マルキシズムに影響された若者たちの性急な独断。

*「経済・物質面」に関する指摘を忘れないこと。

問三

種々の学問の源泉である文化伝統の根元から出発して自然に先端的研究へと至りうる欧州の研究方法とは逆に、日本における明治以来の欧州文化の享受法は、急場の必要に応じて先端の成果だけ移植し、根元へと遡れないという点。

*「ヨーロッパの学問研究とは逆に」「根元からではなく、逆に末端から」という指摘が必須である。

問四

外国文化の迅速な移入を第一とする日本の享受法は、根元的な文化伝統との関連性を欠く皮相なものとなった。同時に、教育者が欧州文化は日本古来の淳風美俗を汚すと捉え、政治家が政治的社会的機構のすべてに変調が生じたとするという、不善と不完全さをも本質的に伴ったということ。

問五

教養は、専攻した知識が遊離せず、様々な人生経験を基礎として広い世界や周囲の社会の正しい認識を与え、つねに新鮮で進歩的な文化意識に生きることを可能とする。また、人格的な纏まりとして人間性の完成に積極的意義を持ち、進歩した社会で人々が物質的生活を離れ、高い知識や文化について語り合うことを可能とするものであるべきである。

*「あるべき」教養観であるから、将来の「進歩した社会」にも触れること。